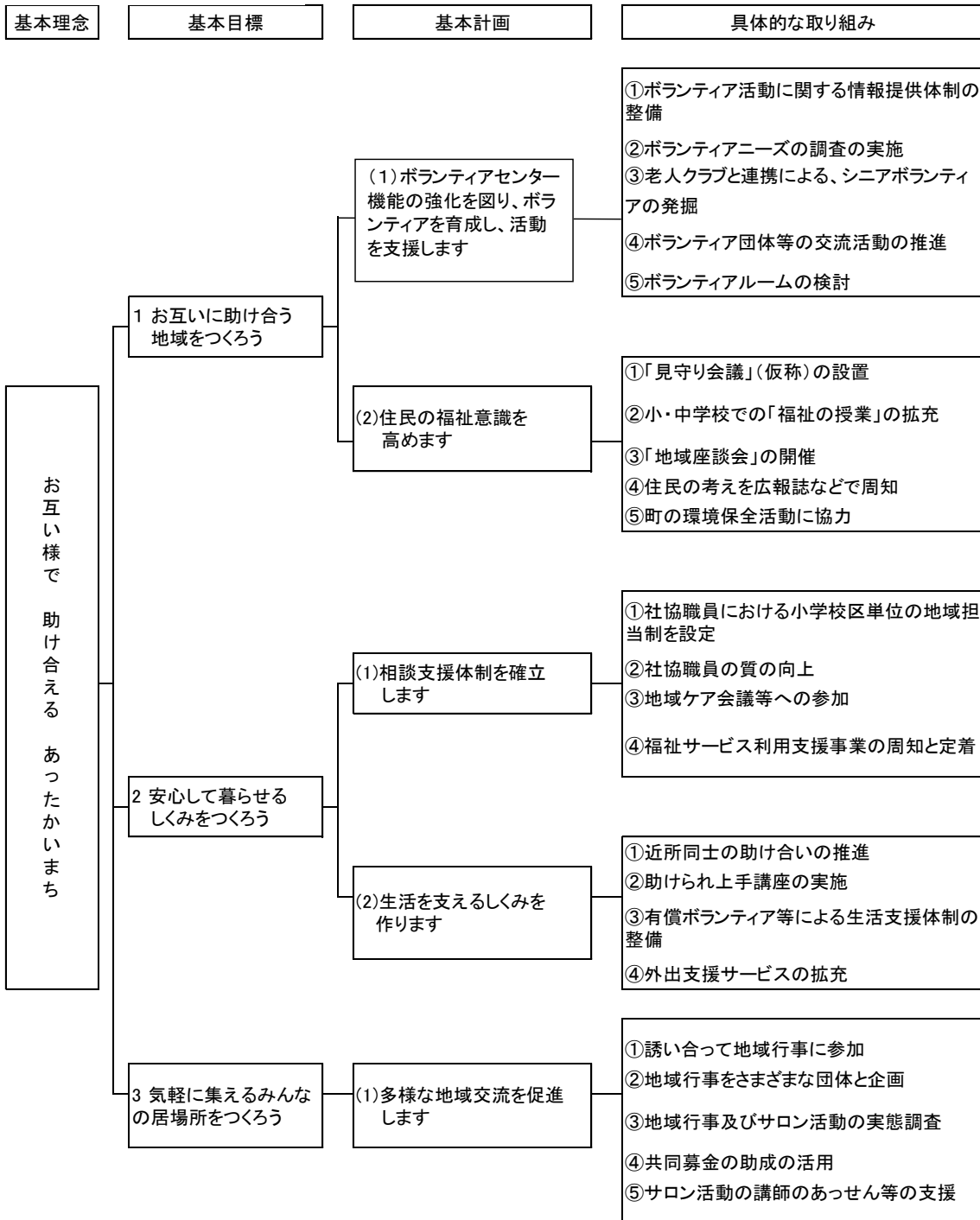


計画の体型図



第 1 次計画の検証

基本目標 1 お互いに助け合う地域をつくろう

(1) 進捗状況の評価

基本計画 1

ボランティアセンター機能の強化を図り、ボランティアを育成し、活動を支援します

	中間評価	最終評価
①ボランティア活動に関する情報提供体制の整備	4	4
②ボランティアニーズの調査の実施	3	4
③老人クラブと連携による、シニアボランティアの発掘	3	3
④ボランティア団体等の交流活動の推進	4	4
⑤ボランティアルームの検討	3	3

基本計画 2 住民の福祉意識を高めます

	中間評価	最終評価
①「見守り会議」(仮称)の設置	2	2
②小・中学校での「福祉の授業」の拡充	4	3
③「地域座談会」の開催	2	2
④住民の考えを広報誌などで周知	3	2
⑤町の環境保全活動に協力	1	—

※⑤については、計画策定時の住民座談会で住民の困りごととして多かった意見に対応する項目であったが、福祉分野での解決は困難であったため評価できない。

(2) 取り組み状況の総括

ボランティア活動者に対する支援は、ボランティアカフェやジュニアボランティア体験事業等をとおして充実できた。しかし、ボランティアに関する情報提供についてはまだ十分とは言えず、今後も情報発信の工夫が必要だと考える。

一方、「見守り会議」や「地域座談会」などの地域住民に働きかける事業については、既存の業務との両立がむずかしく、計画通り進めることができなかった。

基本目標2 安心して暮らせるしくみをつくろう

(1) 進捗状況の評価

基本計画 1 相談支援体制を確立します

	中間評価	最終評価
①社協職員における小学校区単位の地域担当制を設定	3	2
②社協職員の質の向上	3	3
③地域ケア会議等への参加	3	3
④福祉サービス利用支援事業の周知と定着	3	3

基本計画 2 生活を支えるしくみをつくみを作ります

	中間評価	最終評価
①近所同士の助け合いの推進	2	4
②助けられ上手講座の実施	3	2
③有償ボランティア等による生活支援体制の整備	4	4
④外出支援サービスの拡充	2	2

(2) 取り組み状況の総括

平成 29 年度からは、住民同士の助け合いの充実を目的とした「生活支援コーディネーター業務(押水地区)」を受託し、地域サロンや助け合いの実情を把握することができた。また、地域包括支援センターとともに、「地域のお宝発表会」を実施し、住民同士の助け合いを可視化できた。

しかし、志雄地区の生活支援コーディネーターが別事業所へ委託されており、役割が重複している社協の地域担当職員の動きがむずかしくなった。

その他、生活支援コーディネーター業務として、有償ボランティアも立ち上げ、生活上のちょっとした困りごとへの対応も可能となった。

平成 30 年度には社会福祉法が改正され「地域共生社会」が盛り込まれたことを踏まえ、今後は、福祉課題の解決に向けて、社会福祉法人等と連携しながら取り組んでいきたい。

基本目標 3 気軽に集えるみんなの居場所をつくろう

(1) 進捗状況の評価

基本計画 1 多様な地域交流を促進します

	中間評価	最終評価
①誘い合って地域行事に参加	—	—
②地域行事をさまざまな団体と企画	—	—
③地域行事及びサロン活動の実態調査	3	3
④共同募金の助成の活用	3	3
⑤サロン活動の講師のあっせん等の支援	3	3

※①、②の主体は住民であるため、評価はできない

(2) 取り組み状況の総括

地域サロンの実情を把握することで見えてきた課題である資金・内容・参加者の固定などに対し、情報提供や共同募金の活用など引き続き支援を行いたい。